



『植物』からみた 日本の世界自然遺産

日本の世界自然遺産、白神山地、屋久島、知床、小笠原諸島。
そして、2021年7月に世界自然遺産に登録された奄美大島、
徳之島、沖縄島北部及び西表島。

これら世界自然遺産の価値とその価値を守る取り組み、
今後の課題について、「植物」を軸にお話します。



採食するエゾシカ

オンライン開催
参加無料



クマゲラの森

白神山地

知床



参加申し込みはこちら



ヤクシマヤマツツジの花

屋久島



南硫黄島

小笠原諸島



イジュ (ツバキ科) の花

奄美大島、徳之島
沖縄島北部及び西表島

2021年9月20日 (月・祝) 13:30~16:30

Zoomウェビナーによるオンライン開催

オンサイト会場 (大会参加者対象) : 東京都立大学 南大沢キャンパス 1号館120番教室 (B会場)

主催: 日本植物学会

お問い合わせ: 日本植物学会 第85回大会 公開講演会事務局 bsjpswww@tmu.ac.jp

プログラム

13:30 開会挨拶

寺島一郎（日本植物学会会長／東京大学大学教授）

13:40 知床世界自然遺産地域の植物の特徴、現状と課題

石川幸男（知床世界自然遺産地域科学委員／弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター教授）



2005年に世界自然遺産に登録された知床半島は海岸から高山まで、多様な植生が広がっている。ここでは、1980年代からエゾシカが急増し、生態系に悪影響を与えている。世界遺産地域の植生の特徴、シカによる影響の現状と対策、および今後の課題について紹介する。

14:05 世界遺産白神山地のブナ林とその未来

中静 透（白神山地世界自然遺産地域科学委員長／森林総合研究所所長）



白神山地の世界自然遺産の価値は、日本の固有種であるブナの原生林が広く残っているという点にある。世界でもまれな多雪環境にある白神山地のブナ林の生態学的な特徴を紹介するとともに、現在抱えているシカの侵入や気候変動の影響といった問題とそれに対する対策などについて紹介する。

14:30 小笠原諸島の自然環境と固有植物

高山浩司（京都大学大学院理学研究科准教授）



小笠原諸島は、乾性低木林に代表される独自の生態系を有する海洋島である。単位面積当たりの植物の固有種数は、世界の海洋島と比べ著しく高い。これは、多様な起源をもつ固有種が独自の進化を遂げた結果であると考えられる。小笠原諸島の植物の起源と進化に関する最新の研究を紹介し、その自然環境の持続可能性について議論する。

14:55 休憩

15:05 屋久島における植物相研究と生態系管理

矢原徹一（屋久島世界自然遺産地域科学委員長／一般社団法人九州オープンユニバーシティ研究部長／福岡市科学館館長）



屋久島には40分類群を超える固有植物が生育し、いまなお新分類群の発見が続いている。屋久島の植物相研究の最新成果にもとづいて、屋久島の植物相の特徴を紹介する。一方で、ヤクシカの摂食によって、林床に生える固有植物や希少植物の群落が減少し、一部の種は絶滅が危惧されている。ヤクシカの個体数管理を含む生態系管理の現状を紹介し、今後の課題について考える。

15:30 奄美群島の植物と世界遺産

鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター特任教授）



約1700種の維管束植物が分布する奄美群島は、島の集散離合を繰り返した地史を持ち、他地域からの侵入と絶滅や独自の進化の結果、複雑な植物相を持つ。南西諸島の固有種は約120種で、奄美群島は約35種を含む。また、島ごとに多様な種内変異をもつ種も多い。この地域の独特な植物相がどのように作られてきたかについて紹介する。

15:55 休憩

16:00 パネル討論『植物』からみた日本の世界自然遺産

講演者全員＋可知直毅（小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員長／東京都立大学特任教授）

日本の世界自然遺産の価値と保全上の課題について、「植物」という共通の視点から議論する。

16:25 閉会挨拶

村上哲明（大会会長／東京都立大学教授）